



## NEWS RELEASE

株式会社 すららネット

2024年12月4日

# 6か国の子どもたち 3,800名以上が参加 「すらら 国際デジタル算数/数学コンテスト」 表彰式&交流イベントを開催

AIを活用したアダプティブな対話式 ICT 教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、国内外の生徒が集い算数/数学力を競う「すらら国際デジタル算数/数学コンテスト2024」（SuRaLa International Digital Math Contest 2024、以下「すらら国際DMC」）を、2024年10月10日（木）から11月16日（土）まで開催しました。国内予選・本選、成績上位者による国際決勝を経て、11月23日（土）に表彰式と国際交流イベントをオンラインで行いました。



### 算数/数学力向上だけでなく、目標に挑戦すること、努力が成果につながる経験を

すららネットでは、海外向けに英語などに翻訳したデジタル算数/数学AI教材「Surala Ninja!」の提供と運用サポートを2014年から開始し、現在ではインドネシア、スリランカ、フィリピン、エジプト、カンボジアなどの国々で活用されています。2017年より開催してきた「すらら国際DMC」は、「Surala Ninja!」、海外版「すらら」での学習を通じて、基礎計算力の定着、数学的思考力の向上を図ります。さらに、子どもたちが目標に挑戦し、努力が成果につながる成功体験を通じて、自信や自己肯定感の醸成を目指しています。今回は日本、インドネシア、スリランカ、フィリピン、エジプト、カンボジアの6か国から3,800名を超える子どもたちが参加し、その数は年々増えています。

## 締めくくりは仲間を称えあう表彰式と異なる言語でも楽しめる交流イベント

「すらら国際 DMC」は、算数の正確性と速さを競う「マス計算」と数学的思考力を問う問題に挑戦する「算数/数学テスト」の2つの部門を学年ごとに設けています。

各国での予選、本戦を勝ち抜いた子どもたち 282 名が国際決勝に挑みました。そして 11 月 23 日に国際決勝の結果発表と表彰式、および毎年恒例の国際交流イベントをオンラインで行いました。参加した約 350 名の子どもたちは、お互いの健闘を称えあうほか、グループに分かれてクイズに挑戦。異なる言語であってもジェスチャーなどで交流を深め、イベントを楽しみました。



## 日々の努力の積み重ねが結果に。受賞者の驚きと喜びの声

国際決勝の表彰式では、ZOOM や YouTube のストリーミングで多くの児童・生徒や教員、保護者が見守る中、各種受賞者の発表を行いました。

マス計算の最上位部門である「100 マス計算」の中学生の部では、凜風（りんか）さん（日本）が、各四則演算の 100 マス計算テストをすべて満点・平均回答 1 分 11 秒という成績で見事 1 位を納めました。さらに、国際決勝のマス計算に参加した約 230 人のなかで、最も正答率と 1 マス当たりの回答スピードが速かった人に贈られる「SRJ Award」も受賞。凜風さんは、「こういうことがあるのかと衝撃的」と同時受賞の驚きを隠せない様子でした。凜風さんは、昨年は失敗してしまった経験を活かし、「今年はたくさん練習して国内戦を通過した」と言います。しかし国内本戦で何問が間違えてしまったそうです。それでも国際決勝に進み、緊張感のあるなか最終的に 2 つの賞を同時受賞という素晴らしい結果となりました。

株式会社 SRJ カスタマーサクセス事業部の中田 亮介氏から、「驚異的なスピードで問題を解き、高い正答率を維持されて、本当に素晴らしく思いました。昨年悔しい思いをして日々努力を積み重ねた結果だと思います。これからも自分の可能性を信じて、さらなる高みを目指して頑張ってください」とお祝いのメッセージを述べました。

また、「算数テスト」部門では、日本数学検定協会から、算数/数学の実用的な技能を測る、実用数学技能検定（数学検定・算数検定）の問題をご提供いただき、生徒は、代数・図形・統計など様々な分野で思考力を試される問題に挑戦しました。「算数テスト」の最上位学年である中学 1 年生部門の優勝者には、日本数学検定協会から「SUKEN Award」が贈られました。受賞したのはインドネシアの Aiysha Syakira さんです。表彰式には参加できませんでしたが受賞の知らせに「6 カ国の仲間と競い合う機会を得たことをとても嬉しく、1 位とアワードを受賞できて驚きました」とコメントをくれました。また、「テスト後にすぐに正解不正解の結果とともに点数が表示されるため、参加者にとって振り返る材料となる」とイベントの意義と公平公正性を評

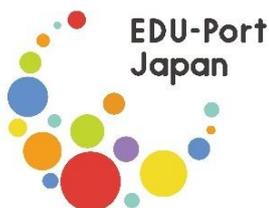
価。さらに、「今後も毎年参加したいと思うので、中学2年生以上の部門が創設されることを願っています」と今後への意気込みを語ってくれました。

公益財団法人日本数学検定協会コンテンツプロデュース本部 マネージャー 山口哲氏からは、「普段学校で解いている数学のテストではなく、様々な国の生徒が受ける中での受賞は、本当に意義深い。初めて見る問題やすぐ解けない問題にも粘り強く考える力が発揮された結果だと思います。身につけた数学力は将来様々な分野でとても役に立ちます。今後も数学の学習を楽しんでください」と、お祝いの言葉が述べられました。



### 【開催概要】

- 参加資格：算数 ICT 教材「Surala Ninja!」、海外版「すらら」を学習中の児童・生徒
- 大会スケジュール：
  - ・各国国内予選 2024年9月中旬～10月中旬
  - ・各国国内本選 2024年10月中旬～11月上旬
  - ・国際決勝 2024年11月16日（土）
  - ・表彰式・国際交流イベント 2024年11月23日（日）
- 部門：
  - ・マス計算（学年に応じたマス数で正確性と速さを競う）
  - ・算数/数学テスト（数学的思考力を問う問題で得点を競う）
  - ・特別賞（SUKEN Award、SRJ Award）
- 主催：株式会社すららネット
- 協賛：文部科学省 日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port ニッポン）／公益財団法人 日本数学検定協会 ※順不同



## ■ICT 教材「Surala Ninja! 」について

海外版として小学生向けに開発された、インタラクティブなアニメーションを通じて加減乗除の四則計算を楽しく学べる ICT システムです。生徒は自身のデバイスで自分のペースで学習できるとともに、指導者は学習管理システムを通じて生徒の学習の進捗や理解度を把握した上で学習内容を調整でき、生徒個人にあわせた個別最適化の学習を実現します。現在、スリランカ向けのシンハラ語版、インドネシア向けのインドネシア語版、また、主にインドやフィリピンで活用されている英語版があります。

<https://surala.co.jp/service/product/surala-ninja/>



## ■株式会社すららネットについて

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、アダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」と「すららドリル」を、国内では約 2,500 校の塾、学校等 42 万人を超える生徒に提供しています。全国の公立学校、有名私立中高、大手塾での活用が広がる一方で、発達障がい、不登校、経済的困窮世帯を含む児童生徒に学習の機会を提供するなど日本の教育課題の解決を図ることで成長を続け、代表的な EdTech スタートアップ企業として 2017 年に東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

2014 年より海外での事業も開始し、各国の私立学校及び学習塾へ導入されています。また、近年、日本型教育は世界の多くの国で注目を集めており、日本政府も EdTech 企業の海外展開支援に取り組んでいます。すららネットは経済産業省/JETRO が実施する「未来の教室」海外展開支援等事業に採択されたほか、今年度も官民協働のオールジャパンで取り組む日本型教育の海外展開事業「EDU-Port ニッポン」パイロット事業 応援プロジェクトを通じて、日本の教育関係者との交流やコロナ禍におけるデジタル教育の普及などに取り組んでいます。

- ・コーポレートサイト : <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト : <https://surala.jp/>
- ・海外事業サイト : <https://surala-net.com/>